

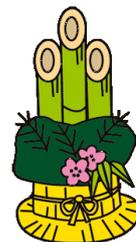
# 明和児童クラブだより

第7号  
2022年1月14日 発行  
(文責) 鷺頭

## 本年もよろしくお願ひいたします！！



三学期が始まり、一週間が過ぎました。今回の冬休みは、今までになく短い休みになりましたが、元気いっぱいの子どもたちからは、家族と過ごした冬休みの話なども聞かれ、それなりに楽しい休みだったことがうかがわれます。本年もぜひよろしくお願ひいたします。



一方で、この冬休み明けは、新型コロナウイルス感染の急拡大とオミクロン株の流行で、さらに心配な状況になってきております。児童クラブとしても、児童の健康状況の把握やコロナウイルス感染予防対策には、今年も十分留意していきますので、ご家庭におかれましても、ぜひご協力をよろしくお願ひいたします。



## 「会員継続のための必要書類」の提出締め切りが本日（14日）になっています。

すでに提出していただいている方もいらっしゃいますが、必要書類（①家庭状況調査票②就労証明書③写真公開にともなう調査のお願い）の提出について、未提出の方は、よろしくお願ひします。就労証明書については、事情により後日の提出になっても構いませんので、その場合は、ご連絡ください。

## ダンス教室を開催しました

冬休み中の12月28日（火）と1月4日（火）の午後に、ダンス教室を開催しました。現在フリーのダンサーとして活躍している堀江真由さんにダンスを教えていただいたり、ダンスを披露していただいたりしました。4日（火）には、真由さんのお兄さんの堀江晃平さんにもお越しいただきました。



## 子育てのあれこれ No.14

今回は、「子どもへの言葉かけ」について、事例を紹介してみたいと思います。

(事例)

3学期が始まって間もないとても寒い日のことです。2年生のA君は、学校から帰って来ると、ランドセルはこたつの横に置いたまま、すぐに、こたつにもぐり込みました。そして、テレビをつけたのですが、流れている番組を観ている様子でもありません。「家に帰ったら、まずは、うがい・手洗いをしてから、一番先に宿題を済ませる」といった約束になっていたのに、A君は、それを思い出したのか、しばらくすると、うがい・手洗いは済ませました。そして、ランドセルを開けて、学級通信を取り出して、母親に差し出しました。「これが済んだら見るから、そこに置いて」と家事をしていた母親が言うので、学級通信は母親の近くにおいて、またこたつに戻りました。しかし、A君は、宿題を始める様子はいっこうになく、こたつの上にあったみかんを食べながら、テレビを何となく眺めていました。一方、ひとまず家事に区切りをつけた母親は、学級通信を見ました。学級通信の書き初めの記事を見て、先日、学校で見たA君の書き初めの作品を思い出しました。「もっと上手に書けるはずなのに」とやや乱暴に書かれていた作品に母親は不満でした。A君の方を見ると、テレビはつけたままで、まだこたつにもぐったまま、今度は近くにあったマンガの本を読み始めました。それを見ていた母親は、たまたまに声をかけました。

母：「何をしているの！早く宿題をやっちゃいなさい！もう冬休みではないんだから、いつまでもだらだらしていたらだめでしょ！マンガより宿題が先でしょ！早く宿題を始めなさい。それに、見てもいないテレビをなんでつけておくの。それから、この前の書き初めだけど、もう少し上手に書けるようにがんばらなくちゃ。ふだんから、字を丁寧に書くようにがんばりなさい。」

A：「今、宿題をしようと思っていたのにな・・・」

母：「こたつにあたってから何分たっていると思っているの！すぐにしなさい！」

A君は、ランドセルから、仕方なく宿題を取り出して、やっと始めました。

この事例での母親の言葉について、どのように感じるでしょうか。

このようなやりとりは、どこの家でもよくあることで、過去を振り返ると我が家でもよくありました。というのも、少しでもよい方向に子どもを向かわせたいという母親の気持ちはよく分かりますし、子どもがそのように動いてくれない場合のいらだちもよく分かります。そういう意味では、**事例の母親の言葉かけは、標準的な母親の対応だと言えます。**そのうえで、さらに、よりよい言葉かけについて考えてみたいと思います。

まず、宿題を始められないのと、テレビをつけっぱなしなのと、文字をていねいに書けないのとは、関連性のないことなので、本来ならば、もう少し時間をおいてから、テレビのつけっぱなしの件や文字を丁寧に書く件には触れるべきです。**大事なことほど一つに絞って指導するのが子育ての鉄則**と言われています。一度に二つ以上のことを指摘されると、子どもへの伝わり方が半減以下になってしまうそうです。

また、ある子育ての理論によると、「ダメ」「ガンバレ」「早くしなさい」というのは、**子どものやる気をくじく三大禁句**と言われているそうです。しかし、家庭でも、また学童でも、この3つの言葉をついついつかしてしまうのが、実際のところでしょう。「ダメ」や「早くしなさい」を多く用いると、子どもは、大人に支配されていることをより強く感じ、**自分は大人から信頼されていないことを強く感じて、自信をなくしていく**そうです。そして、子育てにおいて大切と言われている「自己選択」や「自己決定」といった機会を奪い、**その能力の育成を阻むことになる**のだそうです。一方で、少し考えただけでは悪い言葉かけのように思えないのが、「ガンバレ」です。私たち支援員も、「ガンバレ」は、よく用いている言葉です。しかし、この「ガンバレ」も、肝心なところでつかうのはいいのですが、あまりつかい過ぎると、子どもを追い込んでしまうマイナスの言葉であると言われていいます。精神科医の香山リカ氏は、大人たちの「ガンバレ」が子どもたちを追い込み、「がんばらなくてはいけない」という強迫観念が、子どもや若者に悲劇を生んでいると指摘して、「あきらめることの大切さ」も教えるべきだと主張しています。それは、「ガンバレ」を**言い過ぎると、「あなたの頑張りはまだ足りない」「あなたはまだ頑張っていない」というメッセージが伝わってしまう**からだそうです。

それでは、事例の母親は、どのような言葉かけをすればよかったですでしょうか。子どもが自分で考えられるように、次のような言葉かけをすることもその一例として考えられます。「寒かったから、少しこたつにあたってほしいのね。家に帰ってからの約束を忘れずに、うがい・手洗いができて、お母さんはうれしいよ。きりのいいところで、宿題も始められるね。何時になったら始められるかな？(それから、この前の書き初めもがんばって書いていたね。でもAちゃんならもっとていねいに書けると思うのだけど、あれ以上は無理かな?)」

\*参考文献 「EQ～こころの知能指数」(ダニエル・ゴールマン著・土屋京子訳)、「アドラー博士の子どもを勇気づける20の方法」「失敗に負けない子」に育てる本(星一郎著)、「子どもの発達とつまづき」(高野清純)、「子どもの能力の見つけ方・伸ばし方」、『心の基地』はおかあさん(平井信義)他